

2次元 normal singularityについて 都立大・理 渡辺敬一

我々の考える対象は 2次元 analytic set $V \subset G \subset \mathbb{C}^N$
の normal to singularity である。

(注) 2次元の場合 normal \Rightarrow (高々) 孤立特異点だが
逆は成立しない。

13.1.1. $\{xw - yz = y^3 - z^2 = y^3w - zz^2 = yw^2 - z^3 = 0\}$

$\subset \mathbb{C}^4(x, y, z, w)$ は $(0, 0, 0, 0)$ に於て孤立特
異点をもつが、これは正規(normal)である。この特異点の
正規化は $(0, 0, 0, 0)$ に於て、 \mathbb{C}^5 の中にでなければ埋め込み。
しかし、 $V = \{f=0\} \subset \mathbb{C}^3$ のとき、又は V が局所的に完全交叉
(complete intersection)であるとき、正規 \Leftrightarrow 孤立特異点である。

2次元 normal singularity の次ののような topics について
述べようと思う。

1. Resolution of the Singularity ; その方法。

2. 並に regular surface or exceptional set を
"つぶつぶ" できる特異点について。

3. 特異点の不変量及びそれが小さいときの "分類"。

("genus", "rational singularity", "elliptic singularity",
"Gorenstein singularity")

4. \mathbb{C}^* -action をもつ特異点 (= weighted homogeneous
singularity) に関する精密な結果。

5. 3次元など性質をもつ特異点について (tant singularity,
solvable fundamental group をもつ singularity 等)

1. Resolutionについて.

V を 2 次元 analytic space, P を V の normal sing. とする.

(以後、簡単のため、常に P は V の唯一の特異点と仮定する)

$\pi: \tilde{V} \rightarrow V$ が Po resolution とは、 π は proper holomorphic map で、 $\pi|_{\tilde{V} - \pi^{-1}(P)}: \tilde{V} - \pi^{-1}(P) \rightarrow V - \{P\}$ は bi-holomorphic. resolution は常に存在する (広巾; Zariski). このとき $\pi^{-1}(P) = \bigcup_{i=1}^n E_i$; (E_i は irreducible projective curve) と書ける. $\bigcup_{i=1}^n E_i$ がどんな曲線で、 $\bigcup_{i=1}^n E_i$ の \tilde{V} への埋め込みの様子がどうなっているかによて、特異点 P の状態がわかる. 与えられた P に対して \tilde{V} を求めようとする.

ここでは Laufer の本にある Jung (?) の方法を見て見る.

Step 1. Cyclic Quotient Singularity の resolution.

$$C_{n,q} \in \begin{bmatrix} e_n & 0 \\ 0 & e_q \end{bmatrix} \quad (e_n = \exp\left(\frac{2\pi i}{n}\right), n \neq q \text{ は互いに素})$$

で生成された $GL(2, \mathbb{C})$ の subgroup とする. $C_{n,q}$ は自然に $\mathbb{C}^2/\mathbb{Z}_2$

作用し、 $\mathbb{C}^2/C_{n,q}$ は $(0,0)$ は normal singularity をもつ 2 次元 analytic space となる. これを $X_{n,q}$ と書く. 一般に、 $X_{n,q}$ は \mathbb{C}^n の領域に埋めこんだり、その方程式を書くのはめずらしくない (Riemann - schneider, [3] 参照) $X_{n,q}$ は

$$\{z^n = x^{mq}y\} \subset \mathbb{C}^3 \text{ の正規化} \text{ にならう}.$$

$X_{n,q}$ の resolution を構成しよう.

$$\frac{n}{q} = k_1 - \frac{1}{k_2 - \frac{1}{k_3 - \dots - \frac{1}{k_s}}} \quad \text{と連分数展開する.}$$

$$\left[\frac{5}{2} = 3 - \frac{1}{2}, \frac{5}{4} = 2 - \frac{1}{2 - \frac{1}{2}} \right]$$

smooth surface $M = M(k_1, \dots, k_s)$ を次のように構成する.

$$M = \bigcup_{i=0}^s U_i, \quad U_i = \mathbb{C}(u^{(i)}, v^{(i)}) \quad (u=u^{(0)}, v=v^{(0)} \text{ とき}), \text{ ただし},$$

$$U_0 \cap U_1 = \{u \neq 0\}, \quad u' = \bar{u}, \quad v' = u^k v$$

$$U_1 \cap U_2 = \{v \neq 0\}, \quad v'' = \bar{v}^{-1} \quad u'' = v'^{k_2} u'$$

$$U_2 \cap U_3 = \{u'' \neq 0\}, \quad u''' = \bar{u}'^{-1}, \quad v''' = (u')^{k_3} v''$$

$$A_1 = \{v=v'=0\}, \quad A_2 = \{u=u'=0\}, \dots, \quad A = \bigcup_{i=1}^s A_i$$

とおくと, $M = \{uv \neq 0\} \cup A \cup \{u=0\} \cup \{v=0\}$ (s: odd とき)
(s: even のとき, $v^{(s)} (= 1 \text{ つ})$, $v^{(s)}$ は A 上に holomorphic)

各 $A_i \cong \mathbb{P}_{\mathbb{C}}^1$ で, $A_i \cdot A_i = -k_i$ である, また, (s: odd のとき)

$v^{(s)} = u^m v^n$, また, $v^{(s)}, v$ は M 全体で holomorphic
な函数である.

Step 2 一般の場合, V は \mathbb{C}^2 の covering space と考える.

このとき $\pi: V \rightarrow \mathbb{C}^2$ の branch locus をとる. branch
locus が $x^a y^b = 0$ の形にならなければ, V は $\mathbb{Z}^c = x^a y^b$
の形にならねばいけないから, この場合は Step 1 に帰着できる.

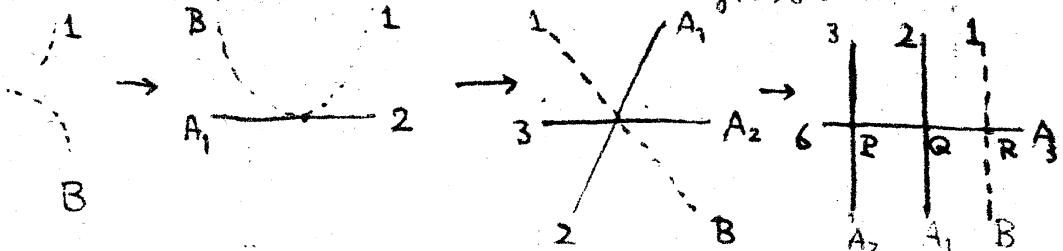
従って branch locus は normal crossing (nct) にすぎ
ないが, これは, (branch locus は 平面曲線 (nct)),

\mathbb{C}^2 で一気にとまる blow-up を繰り返して得られる.

つまりて, $\mathbb{Z}^5 = x^2 + y^3$, $\mathbb{Z}^6 = x^2 + y^3$, $\mathbb{Z}^7 = x^2 + y^3$ を考へ

よう. このとき branch locus は必ず $x^2 + y^3 = 0$ となる.

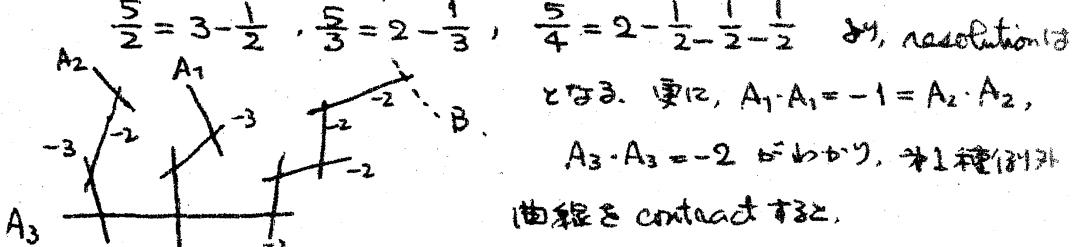
この curve は特異点でなく, これが normal crossing にすぎない.



$$Z^5 = x^2 + y^3.$$

このとき、点 P, Q, R の上の resolution はそれぞれ

$X_{5,2}, X_{5,3}, X_{5,4}$ の resolution と同じである。



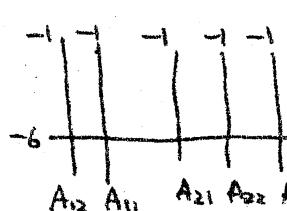
曲線を contract する。

Z は dual な graph Γ 、 を得る。

$$Z^6 = x^2 + y^3.$$

このとき A_1, A_2 の逆像は可算で、それそれ 2, 3 の成分を持つ。

また、 A_3 の逆像は elliptic curve である事がわかる。



$A_{11}, A_{12}, A_{21}, A_{22}, A_{23}$ は contract

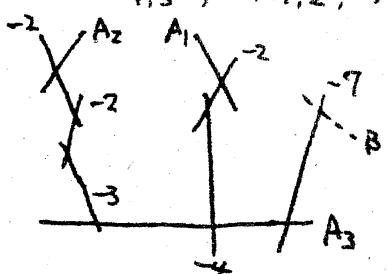
する。

\tilde{A}_3 (elliptic) $\xrightarrow[-1]{\text{elliptic}}$ Z は を得る。

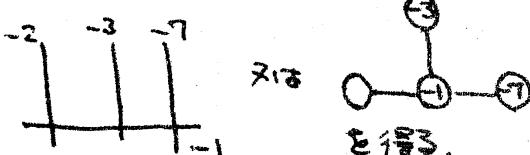
$$Z^7 = x^2 + y^3.$$

このとき、点 P, Q, R の上の resolution はそれぞれ

$X_{7,3}, X_{7,2}, X_{7,1}$ の resolution と同じである。従って



$\therefore Z = A_1^2 = A_2^2 = A_3^2 = -1$ だから、2 次 contact が行なう。



Z は を得る。

今度は smooth な surface X の中 curve $E = \bigcup_{i=1}^n E_i$
がうめこまれている状態を考えよ. このとき, (E は連結とする).

定理 (Brieskorn) $\exists \pi: X \rightarrow V, \pi(E) = \{P\}$,

$\pi|_{X-E}: X-E \rightarrow V-\{P\}$ は biholomorphic

\Leftrightarrow intersection matrix $(E_i \cdot E_j)_{i,j}$ が負定値.

131. C が complete smooth curve, L が C 上の line bundle,
 $\deg L < \infty$ とする. このとき L の 0-section を E とすると,

$E^2 = \deg L < 0$ より E は一直線に contract できる. このとき

$\pi(E) = P$ の 局所環は

$R = \bigoplus_{n \geq 0} I(C, \mathcal{O}(L^{\otimes n}))$ (を analytic にしたもの) で得られる.

特に, C が elliptic curve, $\mathcal{O}(L) = \mathcal{O}(-x)$ (C の負点を定義する ideal)

のとき, R は $I \in R_1, f \in R_2$, $f' \in R_3$ で生成され,

$$\mathcal{O}_{V,P} \cong \mathbb{C}\{x,y,z\}/(z^2 - 4y^3 + g_2yz^4 + g_3z^6)$$

(\mathcal{O} の genus が 2 以上, $\mathcal{O}(L) = \mathcal{O}(-x)$ ($x \in C$) のとき, R は

$\mathcal{O}_{V,P}$ の構造は $x = z^2$ で "Weierstrass gap sequence"

と密接な関係をもつ.

2. いくつかの 不変量 について.

$\mathbb{P}^2 \ni C$ が degree d の 間欠曲線のとき, C の 種数は

$$g = \frac{(d-1)(d-2)}{2} - \sum_{x \in C} \mu_x$$
 で与えられた. (μ_x は $x \in C$ の
特異点に対する 不変量).

二次元 normal singularity のとき, これに対するものは,

$p_g(\mathcal{O}_x) \stackrel{\text{def}}{=} \dim_{\mathbb{C}} R^1 \pi_* (\mathcal{O}_{\tilde{V}})$ (但し, $\tilde{V} \xrightarrow{\pi} V$ は 特異点の
resolution. (V が Stein のとき, $p_g(\mathcal{O}_x) = \dim H^1(\tilde{V}, \mathcal{O}_{\tilde{V}})$)).

このとき $\pi: \tilde{X} \rightarrow X$, \tilde{X} が smooth のとき,

$$(\dim H^2(X, \mathcal{O}_X) - \dim H^1(X, \mathcal{O}_X)) - (\dim H^2(\tilde{X}, \mathcal{O}_{\tilde{X}}) - \dim H^1(\tilde{X}, \mathcal{O}_{\tilde{X}})) \\ = \sum_{x \in X} p_g(\mathcal{O}_x).$$

もう一つの invariant は、 $(K_X)^2 - (K_{\tilde{X}})^2$ を表す $(K_X, K_{\tilde{X}})$

は $K_X, K_{\tilde{X}}$ の canonical divisor で $\Theta(K_X) = \Delta K_X$ である。

$$\pi^*(P) = \bigcup_{i=1}^n E_i \text{ のとき, } Z = \sum n_i E_i \quad (n_i \geq 0) \text{ で,}$$

$\dim H^1(\mathcal{O}_Z) = \dim R^1 \pi_* (\mathcal{O}_Y) = p_g(\mathcal{O}_P)$ である Z のうち最も上のものがである。

更に、 \mathcal{O}_P が Gorenstein 点となるとき、 $Z = -K$ ($\pi^*(P)$ の ΔK_Z)

となる (M. Reid). このとき、 $-Z^2 = K_X^2 - K_{\tilde{X}}^2$ となる。

また、 $Z_0 = \sum m_i E_i \quad (m_i \geq 0)$ で、 $\forall E_i, Z_0 E_i \leq 0$ という条件

を考えると、これもまた Z_0 にも最も上のものが存在する。これを fundamental cycle と呼ぶ。

$p_g(S_P) = 0$ (P : rational singularity である) のとき、 $-Z_0^2$ は \mathcal{O}_P の重複度と一致する。 P を埋め込める最も次の点は $-Z_0^2 + 1$ である。

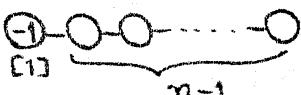
\mathcal{O}_P が Gorenstein $\Leftrightarrow -Z_0^2 = 2$ で (このとき、完全な分類が既に知られている) このとき、 $Z = -K = 0$.

$p_g(S_P) = 1$ (P : "elliptic singularity" と呼ばれる事がある)

$\Leftrightarrow \mathcal{O}_P$ が Gorenstein のとき、 $Z_0 = Z = -K$ (M. Reid).

このとき、 $f_k = -Z_0^2$ は P の重複度、即ちの込み次元を決める。

P の重複度 = $\max(f_k, 2)$, P の込み次元 = $\max(f_k, 3)$.

例1. $x^2 + y^3 + z^{6n} = 0$. グラフは 

$$p_g = n, f_k = 1.$$

例2. $x^2 + (y+z^2)(y^2+z^{n+4}) = 0$. グラフは 

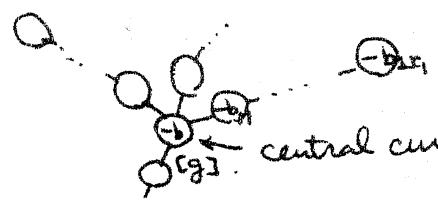
$$p_g(\mathcal{O}_P) = 1, f_k = 1.$$

例3. $x^2 + \prod_{i=1}^{2g+1} (y + a_i z^2) = 0 \quad (a_i \neq a_j)$. 

$\begin{cases} -1 \\ \text{or} \\ g \end{cases}, \quad p_g(\mathcal{O}_P) = g^2.$

3. \mathbb{C}^* -action も特異点によって決まる (Pinkhamによる).

Orlik-Wagreich [4] によると \mathbb{C}^* -action も特異点は
同じやうに resolution の 3 つは (\mathbb{C}^* -action も)
weighted homogeneous type) weight だけで決まる事
がわかる。また、グラフは "star" である事もわかつてゐる。

 \mathbb{C}^* -action もっとも特異点は
このものに決まる。

"枝" と C の交点 $\{P_i\}_{i=1}^n$.
その conormal bundle $\mathcal{L} \cong \mathcal{O}(D)$.

$$\frac{d_i}{e_i} = b_{i1} - \frac{1}{b_{i2}} - \dots - \frac{1}{b_{ir_i}}$$

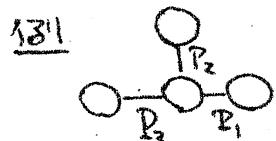
このときある curve C' , 有限群 $G \subset \text{Aut}(C')$, G -invariant
な line bundle \mathcal{L}' on C' , がある。

$$\mathcal{O}_P \cong \left(\bigoplus_{n \geq 0} H^0(C', \mathcal{L}'^{\otimes n}) \right)^G \quad (\text{analytic algebra})$$

がわかる。更に, \mathcal{O}_P は

$$\mathcal{O}_P \cong \bigoplus_{n \geq 0} H^0(C, \mathcal{O}(D^{(n)})), \text{ 但し, } D^{(m)} = mD - \sum_{i=1}^n \left\{ m \cdot \frac{e_i}{d_i} \right\} P_i$$

と書ける。但し, $\{x\}$ ($x \in \mathbb{R}$) は ± 1 以上の整数。

例  $P_1 = 0, P_2 = 1, P_3 = \infty, D = P_2 + P_3$ とする。

$$D^{(1)} = -P_1, \quad H^0(\mathcal{O}(D^{(1)})) = 0.$$

$$D^{(2)} = P_2 + P_3 - P_1, \quad H^0(\mathcal{O}(D^{(2)})) \ni x=t, y=\frac{t}{t-1}$$

$$D^{(3)} = -2P_1 + P_2 + P_3, \quad H^0(\mathcal{O}(D^{(3)})) \ni z = \frac{t^2}{t-1}$$

$$\bigoplus_{n \geq 0} H^0(C, \mathcal{O}(D^{(n)})) \neq x, y, z \in \mathbb{C} \text{ 生成する, relation は,}$$

$$z^2 = x^2(y+z).$$

References.

- [1] Laufer: Normal Two-dimensional Singularities,
Annals of Math. Studies, Princeton Univ. Press
- [2] M. Reid: Elliptic Gorenstein Singularities of Surfaces,
(Preprint).
- [3] O. Riemenschneider: Deformationen von Quotient
-singularitäten (nach zyklischen gruppen), Math. Ann.
209 (1974), 211~248.
- [4] Splik-Wagreich: Singularities of algebraic surfaces
with \mathbb{C}^* -action, Ann. of Math. 93 (1971),
205~228.
- [5] H. Pinkham: Normal Surface singularities with
 \mathbb{C}^* -action, Math. Ann. 227 (1977), 183~193.